

東日本大震災で震度6弱を記録した茨城県水戸市。消費者向けのワイン啓蒙に長年力を注いできた『太萬川屋』は、ワイン会の雰囲気が大きく変わったと実感している。

開催した大小の「ワイン会」は、例年と変わらない回数をごこなした。震災直後の4月も、一〇人〜一〇〇人規模で合計六回実施した。「盛り上がり方、喜ばれ方が尋常ではない」と同店の植田真未さんは話す。

このワイン会は元来得意先料飲店の営業支援を兼ね、そこを会場として消費者を連れて行き、ワイン会をきっかけに以後、料飲店を利用してもらうことを念頭に実施してきた。現在はマラソンやフラダンスなど、同じ



太萬川屋・植田真未さん

## 水戸で「ワイン会」熱、高まる

「また会えて、話ができる、ワインが飲める幸せを味わったから」

趣味のグループの集まりでワイン会が組織され、実施している。

「喜ばれ方が尋常でなかったのは、お互い生き延びて、また会えて、話ができる、ワインが飲める幸せを味わったから」(植田さん)という。各グループの「絆」がより深まった。

太萬川屋は、九割が業務用販売で、ワインは酒類売上げの二〜三割を占める。売上げは5月以降、前年比九〇%台に回復した。店売りは震災後、比較的高いワインが売れるようになってきている。

「お酒の役割は大きいと実感した。楽しい時だけの飲み物ではない。厳しい現実のなかで、飲むならよいワインを飲もうと思った人が、とても多かった。お客さんが、みずからお酒の役割を学んだ」(植田さん)

同様の声は東北でも各店から聞かれた。「うれしい時も、悲しい時も、お酒が与えてくれる慰謝がある」(盛岡市・きふねの村井純子さん)



吉田酒店・喜岐泰



いわき市は福発から南へ四〇kmほど。風向きの関係で放射線量が比



●メルシ  
6月末夏  
年並みに買